

編集後記

第8回目の共通第1次学力試験の出願も終わり、いよいよ本試験を迎えることになりました。

教育改革の重要課題の一つである共通1次試験を中心とした大学入試制度改革について、臨時教育審議会においては第1次答申が出され、具体的改革案が提示されたところです。また、国立大学協会では、入試改善特別委員会において大学入学者選抜方法の改革について種々検討が進められ、昭和62年度の共通第1次学力試験の出願教科・科目について改善案が決定されるとともに、さらに受験機会の複数化についても検討が進められています。

本号では、現在、臨時教育審議会第四部会長として、大学入試制度の改善に御尽力されている飯島宗一名古屋大学長に「大学入学者選抜制度の改革について」を御執筆いただき、巻頭に掲載させていただくとともに、現在、国立大学協会の入試改善特別委員会委員長として、現行制度の改善について検討に当たられている、松田武彦東京工業大学長に「昭和62年度以降の大学入学者選抜方法の改善」について御執筆いただきました。

事例紹介では、第2次試験における入学者選抜方法について、山形大学（人文学部）、名古屋大学、国際基督教大学にそれぞれの事例を紹介していただきました。

研究ノートでは、前号に引き続き、「解答分析（国語）」、「高校調査書の利用法」、「新入生アンケートにみる入学試験観」及び「国際バカロレア最終資格試験の試行テスト」を御紹介願いました。また、当センターの荒井助教授から「共通1次入試制度における進学構造の変化：輪切り・序列化をめぐる」を公表いたしました。

本号の発刊に当たり、御多忙の中を寄稿いただきました、荒木、小川、原、相原、宮沢、熊本、高野の諸先生に厚くお礼申し上げます。